

一 論説 (配点 35)

問一 解答番号 1 正答⑤ 「配点 4」日本人は忠実に「言葉の由来を字の種類で書き分けている」という意味だが、文節の係り受けとしては、「忠実に」は「書き分けて (います)」にかかっている。

問二

- (1) 解答番号 2 正答③ 「配点 3」正しい表記は「由来」。従って (b) 「経由」と (a) 「在来」の組合せが正解。
(2) 解答番号 3 正答⑥ 「配点 3」正しい表記は「密接」。従って (c) 「密室」と (b) 「溶接」の組合せが正解。
(3) 解答番号 4 正答② 「配点 3」正しい表記は「用語」。従って (a) 「悪用」と (c) 「豪語」の組合せが正解。
(4) 解答番号 5 正答⑤ 「配点 3」正しい表記は「範囲」。従って (c) 「規範」と (a) 「包圍」の組合せが正解。

問三 記述問題 I 「配点 8」傍線部及びその直前の一文から確実に読み取れることは、(1) 韓国でも「固有の文字」以外の漢字が用いられることはあること、(1) しかしそれは漢語を表記する場合のみであること (日本のように固有の語彙を漢字表記することはないこと)、の 2 点である。解答例は『韓国でも漢字を使用した時期もあったが、韓国固有の語彙を漢字で表記することはなかった、ということ。』 (48 字)

問四 解答番号 6 正答① 「配点 4」傍線部内の「構成要素の割合」とは「ヤマトコトバ・漢語・カタカナ語」の量的比率のこと。文脈から「カタカナ語の比率が多くなる」ことを言っているのは明らか。

問五 記述問題 II 「配点 7」傍線部先頭にある「それ」の指示内容は、大まかには「漢語」だが、正確には「ある範囲の漢語」であり、更に文脈上、「ある範囲の漢語」は「ヤマトコトバやカタカナ語 (英語表記含む)」では表現できない意味」のことを示している。なお、傍線部最後の「問題」は「課題」に近い。解答例は『ヤマトコトバやカタカナ語では表現できない意味を言い表している漢語を、正しく理解しまた使いこなせるかどうかは日本語における今日的な課題となりうる、ということ。』 (78 字)

二 随想（配点35）

問一 解答番号7 正答①「配点4」「イメージ」とは「そのことを聞いて思い浮かべる映像」のこと。その結果が主な役どころとなる。

問二

(a) 解答番号8 正答③「配点3」「勝気」は「他人に負けまいとする気性」「負けん気」のこと。

(b) 解答番号9 正答⑤「配点3」「挙（こぞ）る」は「残らず集める」の意。「こぞつて」は「挙る」の連用形＋て。

(c) 解答番号10 正答④「配点3」「嗜好」は「好み」のことだが、特に「普段からの心がけ・積み上げ」の結果を言う傾向が強い。

問三

(1) 解答番号11 正答⑥「配点3」正しい表記は「令嬢」。従って(c)「号令」と(b)「愛嬢」の組合せが正解。

(2) 解答番号12 正答②「配点3」正しい表記は「因子」。従って(a)「近因」と(c)「君子」の組合せが正解。

問四 記述問題Ⅲ「配点8」「盲点」の比喩的意味は「案外に、誰もが見落としているような点」のこと。「案外に」というニュアンスをどう表現するかがポイントとなる。解答例は『敗戦による変革・刷新もある中、美女の基準が旧態であることに誰も違和感を抱いていなかった、ということ。』（50字）

問五 記述問題Ⅳ「配点8」「レッドパージ」は「戦後日本の反動化の象徴」として捉えられている。「次の時代の顔」を選ばずに「前の時代の顔」を選択するあたりに既にその兆候は見えていた、というのが筆者の主張。解答例は『戦後の美意識の盲点は、しかし確実に日本社会の保守・反動化の動きを予兆していた、ということ。』（45字）

△出題文出典▽寺山修司『美人スター 山本富士子』（書を捨てよ、街へ出よう（復刻版））所収）

三 語句・文法（配点30）

問一

- (1) 解答番号 13 正答③ 「好事家」が「こうずか」と読んで、もの好き、特に変わった物事を好む人のことを言う。
(2) 解答番号 14 正答① 「弾」は「指弾」、「効」は「罪をあばいて取り調べる」の意。
(3) 解答番号 15 正答⑤ 「向こうに回す」は「はりあう・対抗する」の意。「向こうを張る」とも。

問二

- (1) 解答番号 16 正答④ 「真言宗の開祖である弘法大師（空海）は能書家でもあり、その高い技術は筆を選ばなかった。
(2) 解答番号 17 正答③ 「彼岸は春分の日、秋分の日をさんだ前後3日の期間を言う。彼岸とは「向こうの世界」の意。
(3) 解答番号 18 正答② 「配点3」 男女の結びつきは不思議なものであること。「縁は異なるもの味なもの」とも。

問三

- (1) 解答番号 19 正答④ 「配点3」 晴れた日には耕し、雨の日には読書をするような自由な生活のこと。
(2) 解答番号 20 正答② 「配点3」 功績のある者には賞を与え、罪を犯した者は必ず罰すること。「信」は「約束どおり」の意。
(3) 解答番号 21 正答① 「配点3」 事情が分からずどうしてよいか困惑すること。「五里霧」は五里四方が霧に包まれている状態。
(4) 解答番号 22 正答⑤ 「配点3」 （男性の）顔立ちが非常に整っておりきれいであること。「眉」は「まゆ」。

〈記述問題採点基準〉

一 論説

問三 記述問題Ⅰ〔配点8〕

- (1) 「韓国でも漢字を用いた時期はあった」ことが指摘されていて【最大部分点⑤】
- (2) しかし漢字を用いて韓国固有の文字を表記しようとしたことは一度もなかったことを指摘しえて【最大部分点③】

問五 記述問題Ⅱ〔配点7〕

- (1) 「それ」の指示内容である「ある範囲の漢語」がどういうものであるか説明できていて【最大部分点④】
- (2) どういう事柄が「今日の問題」に該当するかが明確に示されていて【最大部分点③】

二 随想

問四 記述問題Ⅲ〔配点8〕

- (1) 「盲点」の比喩的意味を「誰もが見逃していた」という構文で表現することができていて【最大部分点③】
- (2) 戦後の日本人が見逃していたものは何かが的確に説明できていて【最大部分点⑤】

問五 記述問題Ⅳ〔配点8〕

- (1) 「予言されていたもの」は何なのかを的確に説明することができていて【最大部分点④】
- (2) 筆者が言う「時代の運命」について要領よく出題文の趣旨をまとめることができていて【最大部分点④】

*傍線部文の表面的意味をなぞったのみの解答は②